



## (2000円) 特許願

昭和48年9月26日

特許庁長官 斎藤英雄

## 1. 発明の名称

電気カミソリ用ブリシエーピング化粧料の製法

## 2. 特許請求の範囲に記載された発明の数

2

## 3. 発明者

大和市上平柳105番地の3  
氏名 指定 政章 (ほか1名)

## 4. 特許出願人

静岡県静岡市駿河町648  
代表者 水原化成工業株式会社

## 5. 代理人

東京都中央区日本橋三丁目1番地 竹内ビル(電話番号-5780)  
氏名 (5614) 佐藤士野 沢 隆秋

## 6. 添付書類の目録

① 明細書	1通
② 附圖	1通
③ 要旨	1通
④ 願書原本	1通



## 明細書

## 1. 発明の名称

電気カミソリ用ブリシエーピング化粧料の製法

## 2. 特許請求の範囲

1. 敷点が体温附近の粘結性基剤と潤滑性粉末基剤と他の化粧料助剤とを混合することを特徴とする粉末状の電気カミソリ用ブリシエーピング化粧料の製法。

2. 液體状態にある敷点が体温附近の粘結性基剤と潤滑性粉末基剤と他の化粧料助剤とを混合し、冷却して後成形することを特徴とする固形状の電気カミソリ用ブリシエーピング化粧料の製法。

## 3. 発明の詳細を説明

本発明は改良された電気カミソリ用ブリシエーピング化粧料の製法に関するもので、剃り心地が快適であり、電気カミソリの切れ味を向上

## ⑯ 日本国特許庁

## 公開特許公報

## ⑩ 特開昭 50-58242

⑪ 公開日 昭50.(1975) 5.21

⑫ 特願昭 48-108660

⑬ 出願日 昭48.(1973) 9.26

審査請求 有 (全5頁)

庁内整理番号

661744

## ⑭ 日本分類

31 CO

## ⑮ Int.CI?

A61K 7/15

させると共に良好な切れ味を持続せしめ、しかも剃り終った後容易に拭拭し得るものである。

現在電気カミソリ用としてブリシエーピングローション、タルカムパウダー、マイカパウダーパウダー等が知られているが、ローション類は剃り終った後の皮膚刺激があり発赤を生じたり、油分によるぬれりがあり、爽かな感触が得にくい欠点があり、パウダー類は皮膚の分泌物や水分を吸着する利点はあるが、油着性が悪く使用中に剥離して衣類などに落下して汚損せしめにはマイカパウダーが皮膚に密着し、拭拭しにくく白っぽく残存する等の欠点があったが、本発明者は種々実験研究の結果このようないくつかの欠点のない本発明を得たのである。

本発明に於ける敷点が体温附近即ち30~43℃程度である粘結性基剤としてはミリスチルセチ

レート、麻類脂肪酸エステル、セチルラクテート、トリラウリン酸グリセリンエステル、デカノイツクミリステート、エチレンクリコールジステアレート、エチレンクリコールデカノイツクレート、ココアバター、ミリナルミリスティト、アセチル化ソルビタンパルミテート、アセチル化グリセリンモノパルミテート、ステアリン酸エチルエステル等であり、これらの1種又は2種以上を混合して使用するものであり、粒状の  
加量は1～10重量%程度である。潤滑性粉末基剤として  
球形状、多面体状の  
粒としては粒径10～100μ程度で潤滑性及び吸着性が良好で軟質なものであり、多孔性ジビニルベンゼンゼンブンホールポリマー、タルク、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、ポリエチレン粉末、ポリプロピレン粉末、ポリテトラフルオロエチレン粉末、ポリ塩化ビニル粉末、シリカ

パウダー、マイクロクリスタリンセルロース、ナイロン粉末、デンプン粉末、第二リン酸カルシウムアバタイト粉末等の粉末であり、これらを適宜の割合で混合使用するものである。斯る粒状の  
潤滑性粉末の  
添加量は98～85重量%程度である。<sup>1字  
加入</sup>  
る。多孔性ジビニルベンゼンゼンブンホールポリマーは粒径20～100μ程度のものがよく透明であり、着色が容易で潤滑性が大きいものである。タルク、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウムは粒径10～100μ程度のものがよく粒径が10μ以下であると皮膚に白さがあり、透明性が劣り、粒径が100μ以上となると皮膚への附着性が劣る。ポリエチレン粉末、ポリプロピレン粉末、ポリテトラフルオロエチレン粉末、ポリ塩化ビニル粉末は粒径10～100μ程度のものでよく、  
撥水性、撥油性、潤滑性の良好なものである。

シリカパウダーは吸着性、潤滑性の良好なものである。マイクロクリスタリンセルロースは吸着性が良好であると共に試形補助剤ともなるものである。

上記の基剤に添加される他の化粧料助剤としてはグリチルレチン酸ジカルシウム、グリチルレチン酸メチルエステル等の抗炎症剤、メントール、カンフラー等の清涼剤、オキシフェニルエチルアミン、ジヒドロキシフェニルモルフォリン、イミダゾリン誘導体、塩化アルミニウム等の起毛剤、香料、着色料等であり、これらを適宜混合使用するものであり、これらの添加量は1～5重量%程度である。

本発明は融点が体温付近である粘結性基剤1～10重量%と潤滑性粉末基剤98～85重量%と他の化粧料助剤1～5重量%とを充分に混合混

井してアトマイザー処理して後60～100メッシュの篩を通して粉末状製品とするか、前記の粘結性基剤1～10重量%と潤滑性粉末基剤98～85重量%とを充分に混合搅拌しアトマイザー処理し、次で他の化粧料助剤1～5重量%を添加して混合搅拌しアトマイザー処理して後60～100メッシュの篩を通して粉末状製品とするか、前記の粘結性基剤1～10重量%と潤滑性粉末基剤98～85重量%とを充分に混合搅拌しアトマイザー処理後混合搅拌しながら50℃に加温し、粘結性基剤を溶解して潤滑性粉末基剤に吸着せしめ、次で直後にまで冷却し、他の化粧料助剤1～5重量%を添加し充分に混合搅拌し、アトマイザー処理して後60～100メッシュの篩を通して粉末状製品とするものであり、前記の粘結性基剤2～10重量%と潤滑性粉末基剤98～85重量%とを充分に

混合攪拌しアトマイザー処理後混合攪拌しながら40~50℃に加熱し粘結性基剤を溶解して潤滑性粉末基剤に吸着せしめ、次で室温まで冷却し、他の化粧料助剤1~5重量%を添加し、充分に混合攪拌しアトマイザー処理して後模様プレスしてステック状の固形製品とするものである。

本発明による製品を男性100名に20日間使用した結果の並布時のステックの感触：項目A、ひげ、皮膚への付着性：項目B、剃り易さ：項目C、剃った後の皮膚の滑さ：項目D、剃った後の透明性：項目E、総合評価：項目Fは次表の通りである。

実施 例		項 目 B					
		A	B	C	D	E	F
1	X		80	82	88	89	84
	Y		12	6	5	8	9
	Z		8	12	7	3	7
2	X	63	80	81	85	89	82
	Y	31	13	4	2	8	11
	Z	6	7	15	13	31	7
3	X	57	80	81	81	90	79
	Y	35	11	7	9	5	13
	Z	8	9	12	10	5	8
市 販 品	X	51	45	62	14	12	15
	Y	31	24	25	21	20	13
	Z	18	31	13	65	68	72

但、Xは非常に良い、Yはかなり良い、Zは普通

上記の結果よりしてひげ、皮膚への付着性、

剃った後の皮膚の滑かさ、透明性が極めてよく、しかも切れ味を向上し良好な切れ味を持続させることが明らかである。

本発明によるブリシエーピング化粧料は融点が体温附近である粘結性基剤の配合によって潤滑性が良好にしてひげに付着している皮膚の分離物を良好に吸着する軟質の潤滑性粉末基剤と溶解或いは軟化した粘結性基剤とがひげに付着し、カミソリの刃の磨耗を軽減し、刃の損傷を防止し、カミソリの振動運動を円滑迅速にすると共にひげを柔らげその切断を容易にし、剃り心地を快適となし、カミソリの切れ味を向上し、良好な切れ味を持続し、剃り後付着物を容易に拭きし得るものである。

次に本発明の実施例を示す。配合割合は重量%で示す。

#### 実施例 1 粉末状製品

A	タルク	79
	トリラクリン酸グリセリンエステル	6
	マイクロクリスチリンセルロース	3
	シリカバウダー	6
	ナイロン粉末	5
B	メントール	0.1
	グリナルレチン酸メチルエステル	0.1
	香料	0.5
	オキシフェニルエチルアミン	0.3

990gのAを容量9L、22KWのミキサーで5分間混合攪拌し、アトマイザー処理する。次で

加熱冷却ミキサーで50℃に加熱し10分間混合攪拌し、溶解したトリラクリン酸グリセリンエス

テルと共存する潤滑性粉末基剤に付着せしめて

後30℃まで混合攪拌しながら冷却し10gのBを

添加し2分間混合搅拌し、アトマイザー処理し  
た後100メッシュの網を通して粉末状製品とす  
る。

実施例 2 スティック状製品

タルク	78
ココアバター	4
A マイクロクリスチルセルロース	5
シルクパウダー	6
ジビニルベンゼンビンホールポリマー	6
B メントール	0.1
グリチルレチン酸メチルエステル	0.1
香料	0.5
オキシフェニルエチルアミン	0.3

990gのAを容量9L、22KWのミキサーで5  
分間混合搅拌し、アトマイザー処理する。次で  
加熱冷却ミキサーで50℃に加温し10分間混合搅拌

B メントール	0.1
グリチルレチン酸メチルエステル	0.1
香料	0.5
オキシフェニルエチルアミン	0.3

990gのAを容量9L、22KWのミキサーで5  
分間混合搅拌し、アトマイザー処理をする。次で  
加熱冷却ミキサーで50℃に加温し、10分間混  
合搅拌して溶解したデカノイックミリステート、  
及びミリスチルセチレートを共存する調滑性粉  
末基剤に付着せしめて後、30℃まで混合搅拌し  
ながら冷却し、次で10gのBを添加し更に、2  
分間搅拌して後、アトマイザー処理を行った後、  
機械プレスしてスティック状製品とするものであ  
る。

併して溶解したココアバターを共存する調滑性  
粉末基剤に付着せしめて後30℃まで混合搅拌し  
ながら冷却し、次で10gのBを添加し更に2分  
間混合搅拌して後アトマイザー処理を行った後、  
機械プレスしてスティック状製品とするものであ  
る。

このようにして得たスティック状製品は硬度が  
高く割れ、欠けを防止し、外面は鏡面光沢を有  
し、商品価値を高め得るものである。

実施例 3 スティック状製品

タルク	75
デカノイックミリステート	2
ミリスチルセチレート	3
A マイクロクリスチルセルロース	5
シルクパウダー	6
アベタイト粉末	8

7.前記以外の発明者

住所 フジツクンダックス・カイジン  
〒20-18  
兵名 加藤 明二

出版人 ポーラ化成工業株式会社

代理人 藤澤謙一郎

## 訂正書

明細書を下記の通り訂正する。

- 手続補正書(1) 準  
昭和48年10月19日
- 特許庁長官 藤英雄
1. 事件の表示 昭和48年特許第108660号
  2. 発明の名称 電気がソリ用アシエーピング化粧料の製造
  3. 補正をする者  
事件との関係 特許出願人  
氏名(名称) ポーラ化成工業株式会社
  4. 代理人  
住所 東京都中央区京橋3の5竹河岸ビル  
氏名 (5614) 弁理士 野澤 隆秋
  5. 補正命令の日付 昭和一年一月一日  
(発送日 昭和 年 月 日)
  6. 補正により増加する発明の数
  7. 補正の対象 1. 著明の詳細な説明の項  
2. 委任状
  8. 補正の内容
- 添附の訂正書及び委任状



1. 第3頁第5行「ミリチルミリストート」を「ミリスチルミリストート」とする。
2. 第3頁第11行「潤滑性」の次に「、付着性」を挿入する。
3. 第4頁第3行「シウムアバタイト」を「シウム、アバタイト」とする。
4. 第4頁第15行「ニル粉末」の次に「、ナイロン粉末」を挿入する。
5. 第5頁第1行「吸湿性、」の次に「吸油性、」を挿入する。
6. 第6頁第11行、第7頁第3行「基剤C」の次に夫々「付着または」を挿入する。
7. 第10頁第15行、第12頁第2行、第13頁第10行

「付着」の次に夫々「または吸着」を挿入する。

出願人 ポーラ化成工業株式会社

代理人 野澤 隆秋